

中央区文化・国際交流振興協会だより



「日本銀行」(1986年) 小川幸治 中央区立郷土天文館所蔵

● 特集 ●

「世界に誇る日本の漆文化を学ぶ」

伝統素材「漆」を現代に活かす

株式会社佐藤喜代松商店 代表取締役 佐藤 貴彦

■ 令和2年度の事業計画と予算

■ 中央区 ひと 粋・活き 江戸屋所蔵刷毛^{はけ}ブラシ展示館 株式会社 江戸屋



「世界に誇る日本の漆文化を学ぶ」
**伝統素材「漆」を
 現代に活かす**

株式会社佐藤喜代松商店
 代表取締役

佐藤 貴彦



漆は、長い歴史の中で培われた日本の文化として、私たちの暮らしを支えてきました。そこで、その製法等の基本的な知識や受け継がれる職人の技、「日常を彩る美」としての漆の魅力について、専門家から話を伺い、理解を深める文化講座「世界に誇る日本の漆文化を学ぶ」を令和元年9月に開催いたしました。

その2回目に、京都市で漆精製販売業を営む会社の4代目代表取締役として、建築やアパレル、皮製品、ジュエリーなど様々な企業とのコラボレーションを通じて、漆の可能性を広げ続けている佐藤貴彦氏をお招きし、「伝統素材「漆」を現代に活かす」と題してご講演いただきましたところ、大変好評でした。

そこで、このたび講演に関連した内容について寄稿していただきました。

佐藤 貴彦 (さとう たかひこ)



昭和50年(1975)京都市に生まれる。
 平成12年(2000)京都府立大学農学研究科博士前期課程修了
 平成12年-14年(2000-2002)青年海外協力隊員としてエル・サルヴァドル国立農業学校で活動(職種:病虫害防除)
 平成15年(2003)(株)佐藤喜代松商店入社
 平成20年(2008)京都府立大学農学研究科博士後期課程単位取得中退
 平成23年(2011)(株)佐藤喜代松商店 代表取締役就任

全国漆業連合会
 漆を科学する会 事務局
 NPO 法人丹波漆社員
 一般社団法人日本漆工協会 特別会員
 日本文化財漆協会 賛助会員
 上質茂神社 鑑賞初式実行委員長
 京都漆器青年会 会長(平成30年度(2018))
 一般社団法人よろいのや理事

漆は、ウルシノキの幹につけた傷から採取される樹液を加工して塗料としたものです。9000年前(縄文時代草創期)には、すでにヒトがムラの周囲に植栽したウルシノキから漆液を採取し、塗料や接着剤として使われていたことが明らかになっています。自然から採取されて塗料や接着剤として利用できたのは、漆の他に、^{にかわ}膠、植物性油、動物性油、松ヤニ、卵白、コーラタール、^{ろう}蜜蝋、植物蝋などが挙げられます。これらは一度乾いても、水や熱によって溶けてしまいます。それに対して漆は、一度固まると、水にも熱にも溶けません。さらに、酸やアルカリに対しても強く、これほど優れた性質のある物質は他にはなかったと考えられます。

佐藤喜代松商店は、漆屋(漆精製業)として大正10年に京都市内の府庁前で創業し、もうすぐ100年を迎えます。漆器や仏壇仏具、神祭具、座卓などの家具、和建築の内装、和楽器、^{かっちゅう}甲冑、^{さや}刀剣の鞘、茶道具といえば、漆の用途として一番に思いつくと思います。その他、茶釜や鉄瓶などの鉄や銅製品の^{さび}錆止めと着色の用途に漆が使われていることをご存知の方もいらっしゃるかも知れません。金属を高温に焼いておき、そこに漆を塗りつけて、熱で強制的に硬化させる焼付けという方法です。その他の工芸品では襖の引き手や金属象嵌^{がん}でも仕上げに同様の方法が使われています。さらに一般の方には知られていない用途としては、西陣織の織機の糸を通す環という金属部品にも漆が焼付けられています。これは糸の滑りを良くして糸切れを防ぐ目的です。

漆は、すべての伝統的工芸品と関連する材料です。皆さんの目に触れる分野についての情報は他にお任せして、本稿ではあまり知られていないであろうと思われる漆の用途について紹介します。



丹波は、日本で最も良質の漆が採取されるとの文献記録が残る漆植栽地です。2012年よりNPO法人丹波漆として調査研究・植栽・採取・人材育成に取り組んでいます。
 写真提供: NPO 法人丹波漆



生漆
 ウルシノキの幹から採取された樹液が漆の原料です。主成分は、ウルシオールという茶褐色透明の油成分で、水分が30%程度含まれているので乳白色をしています。

染型紙

型紙などを使って布に柄を染める染色方法なっせん（プリント）といひます。

着物の友禅染めには大きく分けて手描友禅と型友禅の二つがあります。型友禅とは、多数の染型紙を使って生地を多色に染める技術で、最高級品の振袖では500枚を超える染型紙を使って染め上げることもあります。この染型紙は、和紙に柿渋を塗って燻いぶした型地紙（渋紙）に型彫り職人が図案を彫ったもので、仕上げに漆を塗って絹紗きぬしゃを貼りつけます。漆を接着剤として使いながら、防水性や染料などに対する耐薬品性も付与しています。この型紙は、三重県鈴鹿市白子が主な産地である伊勢型紙が有名で、江戸小紋や浴衣、手ぬぐい、沖縄の紅型びんがたなどにも広く使われます。甲州印伝で有名ですが、鹿革に漆で柄をいれる際にもこの型紙が使われます。現在では、渋紙と絹紗、漆を使う型紙は極僅かで、代用型紙やスクリーン製版を使うことが多くなりました。漆を大量に消費していた業界の一つです。



友禅染に使う染型紙



漆芸教室の様子。蒔絵・螺鈿・金継ぎ・漆器修理など、多くの技法が学べる漆芸は、長く続ける趣味として最適です。自分の仕事で漆を使いたいというプロ養成の役割もあります。遠方や海外の方とオンライン講義も始めました。

金銀糸・漆糸

神輿みこしや打掛、お相撲さんのまわし等の刺繍ししゅうに使われたり、金襴きんらんや錦などに織り込まれたりする金銀糸も漆が関係しています。金糸の素地は、金糸用に特別に作られている三椀みつまたを原



金糸とその素地となる和紙。和紙に漆を塗り重ねた上に金箔を貼り、それを細く切ったものを絹の芯糸に巻き付けて金糸はつくられています。銀箔を貼った銀糸、色漆糸、色漆に金箔を砂子に振ったものなど多種、太さも15種類以上あります。

料とする和紙です。この和紙に漆を極薄く塗り重ね、漆独特の艶と色をつけます。そこに漆を摺り込んで金箔を貼り、漆が乾いたタイミングに金箔の表面を真綿まわたで磨いて仕上げます。この金箔紙を細く裁断したものが平箔糸（引箔）と呼ばれ、横糸に織り込まれます。

裁断された平箔糸を絹の芯糸に撚りあげたものは、金糸とよばれます。銀箔を貼った銀糸、様々な色漆を塗った漆糸や漆の上に金銀箔を砂子すなごに振ったりして様々な意匠を付けた漆糸、銀箔を薬品で焼いて変色させた焼箔と呼ばれる技法など、多様な技法が発案され作られています。西陣では、伝統的に、漆の糸を織った帯がつくられています。この貴重な技術を継続させるため、金糸加工屋、糸屋、織屋、企画屋と一緒にあって「漆織」というブランドを立ち上げました。漆糸の織物を使った製品作りは勿論ですが、新しい技術や材料を取り入れたり、研究開発も進めたり精力的に活動していて、特許申請にも至りました。



漆精製工場の様子。直径1.5mほどの木の桶に原料漆を入れ、木製の腕木（プロペラ）を回転させて漆液を攪拌します。攪拌して漆液の成分を均質に分散させながら、30%程度含まれている水分量を3~5%程度に減少させます。

**MR 漆、
かぶれにくい
漆の開発**

漆といえば、扱うには高度な技術が必要で長年の訓練を受けた職人しか扱えない、かぶれるといったイメージが強いです。漆をより広い方
に使うにはどうしたら良いかということで開発されたのが、「MR 漆」や「かぶれにくい漆」です。三本ロールミル (Three Roll Mill) という装置を使って精製した MR 漆は、従来からの漆と比べて耐候性が良いという優れた特徴があります。また、漆は、湿度を高くしたム口に入れて乾かす (固める) のが通常ですが、MR 漆は低温低湿度でも乾きやすく、大きな被塗物や建造物への塗装の際に便利です。さらに、漆かぶれを低減した漆により、

体験教室で幅広い方に本物の漆を使っただけのチャンスも増えました。

これらの漆の開発がきっかけで、当社には様々な漆に関する相談が寄せられ始めました。「こんなものにも漆が塗れないだろうか」、「こんな漆商品を作りたいが、できるだろうか」。様々な相談を受けている間に、企画、デザイン、サンプル作成、強度試験、さらには漆以外の加工も引き受けるようになりました。

当社がこれまでに関わった仕事の一例を写真と共に紹介します。小さなアクセサリから建築塗装まで、漆の魅力を最大限に生かすためのデザインや工夫を感じていただくと幸いです。

作品例



TORANOMON TOWERS
ロビーテーブル (東京虎ノ門)
オフィスのロビーに設置された MR 漆塗りのテーブル。赤と濃緑の2色が塗られている。



漆塗蒔絵エレベーター扉「風香に酔う四季の詩」(京都市産業技術研究所)
MR 漆を開発した京都市産業技術研究所 1 階には、大切なお客様を迎えるための役割をする MR 漆塗りのエレベーター扉があります。



様々な漆技法で装飾した観賞用美術工具 (京都機械工具 nepros シリーズ)
京都機械工具の中でも磨きのかかった nepros シリーズは、最高級品です。それに京漆器の技術で装飾されたラチェットレンチは、受注生産品で1~3か月かけて丁寧に作られます。使わないけれども欲しくなる。持っているだけで楽しくなる。高級時計や宝飾品に代わるプレゼントや記念品としても良さそうです。



漆織商品。手前から、名刺入れ (茶巾入れ)、ハンドバッグ (数寄屋袋) ハンドバック蓋部には、希少材である黒柿の薄板の織物を合わせています。漆系と高度な西陣織の技術が融合して無限のテクスチャーを表現するのが漆織の特徴です。

tabane

tabane は、明治 30 年創業の金糸メーカーである株式会社寺島保太良商店 (京都市) のブランドの名称です。



樹花色漆 (ますはないろうるし) と金糸の組み合わせのプレスレット



弁柄色漆 (べんがらいろうるし) と金糸の組み合わせのネックレス



金糸を活用したアクセサリ
金糸のベースはもちろん、金属パーツにも漆が塗られています。



金糸を活用した様々なカラーバリエーションのアクセサリ



黒色漆と金糸の組み合わせのイヤリング

KARAFURU

日本の伝統工芸の技術を今の生活に結びつけるアクセサリブランドの株式会社 KARAFURU (東京都渋谷区) は、蒔絵、螺鈿などの漆工芸の他にも江戸切子や彫金を生かした商品を展開しています。



スマイルネックレス
MAKIE パールネックレス
スマイル。淡水パールに金蒔絵で SMILE マークを施したネックレスです。リングもあります。



ハーキマーのネックレス
透明度の高いハーキマー
クォーツのエッジに色漆や金蒔絵を施したネックレスです。



麻葉うろこや鱗文様といった伝統的な和柄を金蒔絵でパールに施した MAKIE パールピアス和装にはもちろん洋装に合わせてもモダンな印象になります。



色漆のツートーンパールピアス
淡水パールに色漆でツートーンに仕上げたピアス。当社オリジナルの色漆から選んだ日本の伝統色です。



月の満ち欠け
大粒のパールに月の満ち欠けをイメージした蒔絵のネックレス。アシンメトリーに幾つかの珠に金を蒔いてゴージャスかつモダンな印象に仕上げています。

令和2年度の事業計画と予算の概要をお知らせします。事業内容の詳細が決定していない事業については、決まり次第協会のホームページや区のおしらせに掲載いたします。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止又は延期あるいは実施方法を変更する場合がありますので、最新の情報は、協会のホームページをご覧ください。また、協会にお問い合わせください。なお、写真は全て前年度のものです。

令和2年度事業計画

文化振興事業

1 機関誌発行・ホームページの管理運営

「中央区文化・国際交流振興協会だより」を発行するとともに、スマートフォンにも対応できる協会ホームページを適宜更新して、協会の事業紹介や最新のイベント情報をお知らせいたします。

情報誌

部数：5,500部 A4判
発行回数：年2回発行（7月－73号 12月－74号）
ホームページ
URL：https://www.chuo-ci.jp/

2 芸術・文化の普及

(1) コンサート

区民等に親しみやすい音楽鑑賞の機会を提供し、地域の文化活動の推進を図ります。

開催予定：令和2年9月25日（金）午後6時45分開演
会場：日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」
内容：小野リサ 弾き語りボサノバコンサート
出演者：小野リサ（ボーカル、ギター）
参加費：2,000円
定員：200名

※感染症拡大防止のため、定員を会場定員の半分以下で開催する予定です。



令和元年度コンサート

(2) 文化講座

中央区に深い関係の深い各種文化や芸術、歴史等について、専門家の講話等によりその理解を深めるとともに、区民の文化意識の向上を図ります。

開催予定：
第1回：令和2年 9月17日（木）
第2回： 〃 9月24日（木）
第3回： 〃 10月 1日（木）
各回午後6時45分～8時15分

内容：まちかど展示館で学ぶ
講師：公益財団法人 松竹大谷図書館 主任司書 武藤 祥子

銀座かなめ屋・かんざし和装小物展示館
三代目店主 柴田 光治
染物展示館・虎の檻 職方 高林 晋

会場：日本橋公会堂集会室
定員：各回40名
参加費：無料
※感染症拡大防止のため、定員を会場定員の半分以下で開催する予定です。



令和元年度文化講座

(3) 特別文化講演会

展覧会に関連した講演会を、NHKとの共催により年4回程度開催し、区民の文化意識の向上を図ります。なお、参加者には展覧会の入場券（一人1枚）を差し上げます。

※感染症拡大防止のため、開催予定時期等が未定です。

(4) 古典芸能鑑賞会

中央区に深い関わりをもつ古典芸能を鑑賞する機会を提供し、伝統文化に対する愛着心を育むとともに、その継承・普及を図ります。企画・制作は、中央区を中心に活動する古典芸能実演家で構成する「中央区古典芸能の会」に委託しています。

開催日時：令和2年6月6日（土）午後5時開演
会場：日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」
内容：講話、舞踊清元「三社祭」、琉球舞踊 古典女踊り「本嘉手久節」、落語「ちりとてちん」、新作邦楽「弥次喜多・東海道中膝栗毛 in 中央区」

参加費：2,000円（中学生以下は1,000円）
定員：424名

※感染症拡大防止のため、中止にしました。



令和元年度古典芸能鑑賞会

(5) 文化推進事業助成

区内における文化活動をさらに促進し、中央区の文化振興をより一層推進していくため、文化事業等に対して後援するとともに、その事業の実施等に要する経費の一部を助成します。

- ①文化創造・発信事業助成
助成金額：当該事業の対象経費の9/10の範囲内（上限200万円）
- ②文化団体活動助成
助成金額：当該団体活動の対象経費の1/2の範囲内（上限40万円）
- ③文化推進事業助成
助成金額：当該事業の対象経費の1/2の範囲内（上限10万円）

(6) 中央区まるごとミュージアム

中央区と共催で、区民や区外からの参加者の方々が無料の専用バスや船で区内を回遊しながら、魅力あふれるさまざまな文化事業を体験できる総合的な文化イベントを開催しています。

13回目の今年度は、感染症拡大防止のため、事業の実施方法を一部変更して開催する予定です。

開催予定: 令和2年11月8日(日)

会場: 中央区全域

(7) 文化振興プロデュースチーム

「中央区文化振興プラン」の提言(平成20年3月)に基づき、区民(企業、NPO等を含む)の自主的な文化活動の推進・拡大を図るため、中央区と協会が協力して平成20年度に文化の専門家等からなるプロデュースチームを設置しました。今後も、区内の文化事業のさらなる充実・発展に資するため、必要な助言を行ってまいります。

構成員: 6名(検討項目によって委員を追加します。)

国際交流振興事業

(1) 国際交流のつどい

外国人と日本人との交流を推進するため、日本の伝統文化等を紹介するとともに、外国文化にも触れられる交流イベントを開催します。

開催予定: 令和2年11月14日(土) 正午~午後4時

会場: 築地社会教育会館

内容: 伝統文化体験コーナー、懇談コーナー、国際交流サロン、防災コーナー 等

(1) INTERNATIONAL EXCHANGE PARTY

This event is to be held once a year to promote cultural exchange as well as deepen mutual understanding between Japanese and foreign residents. Please come and experience Japanese traditional culture such as Furoshiki wrapping and Flower Arrangement, and dances of various countries!

Date & Time: Sat, November 14, 2020 12:00 – 16:00

Place: Tsukiji Social Education Center

Fee: Free



令和元年度国際交流のつどい

(2) 国際交流サロン

区内在住・在勤の外国人と日本人が、日本の文化等を体験できるイベントを通じて交流を楽しめる場を提供します。

開催予定: 毎月1回(年11回)原則として土曜日の午後

会場: 協会講習室ほか

内容: ボッチャ体験、歌舞伎の紹介、防災訓練 等

※感染症拡大防止のため、今年度も4月当初から中止にしていますが、9月からの再開を予定しています。

(2) INTERNATIONAL EXCHANGE SALON

With the help of International exchange salon volunteers, we'll hold various events on cultural experiences where both Japanese and non-Japanese residents can enjoy free and open communication.

Time Schedule: Once a month (11 times a year), basically on Saturday afternoon.

Events: Let's play Bocca, Introduction to Kabuki, Disaster Preparedness Drill, etc.

The time and venue of the events indicated above varies depending on the events.



令和元年度国際交流サロン

(3) 日本語教室

日本語でのコミュニケーションが困難な区内在住・在勤の外国人を対象に日本語を教えるとともに、受講する外国人と日本語ボランティアが交流できる日本語教室を開催します。

また、教室参加希望者の増加や多様化に対応するため、ボランティアが主催する教室への支援も行っています。

[協会主催の日本語教室]

教室	①水曜日教室	②木曜日教室	③土曜日教室
開催予定	毎月第1・2・3水曜日 (8月を除く) 午後6時30分~8時	毎月第1・2・3木曜日 (8月を除く) 午前10時~11時45分	毎月第2・3・4土曜日 (8月は第2・3土曜日を除く) 午前10時~12時
会場	女性センター「ブーケ2」	協会講習室	協会講習室

※各教室とも、感染症拡大防止のため、今年度も4月当初から中止にしています。(再開未定)



令和元年度日本語教室

[協会が支援する日本語教室]

教室	①ワールドフレンズ 日曜にほんごクラブ	②日本語 おたすけたい	③月島日本語倶楽部
開催予定	毎週日曜日 午前10時~11時30分	月曜日(月3回) 午後7時~8時30分	毎週火曜日(8月を除く) 午前10時~12時
会場	日本橋社会教育会館	日本橋社会教育会館	月島社会教育会館
教室	④日本語コミュニケーション・ パートナー	⑤銀座日本語教室	⑥にこにこ日本語
開催予定	火曜日(月3回) 午後7時~8時30分	毎月第1・2・3水曜日 (8月を除く) 午前10時~11時30分	木曜日(月3回)(8月を除く) 午後7時~8時30分
会場	新富区民館	築地社会教育会館	佃区民館
教室	⑦にほんご生活		
開催予定	毎週土曜日 午後2時~3時45分		
会場	築地教会 別棟		

※①~⑥の教室は、感染症拡大防止のため、今年度も4

月当初から中止となっています。(再開未定)
⑦の教室は、オンラインで開催しています。

(3) JAPANESE LANGUAGE CLASSES

Chuo Cultural and International Exchange Association (CCIEA) offers Japanese Language classes by volunteer teachers. Besides, we sponsor the classes which are hosted by volunteers in order to meet various demands of increasing students.

I Japanese Classes that we host:

Class	Wednesday Class	Thursday Class	Saturday Class
Schedule	The 1st, 2nd & 3rd Wednesdays (Except August)	The 1st, 2nd & 3rd Thursdays (Except August)	The 2nd, 3rd & 4th Saturdays (Except the 2nd & 3rd Saturdays in August)
Time	18:30~20:00	10:00~11:45	10:00~12:00
Place	Chuo-ku Women's Center "Bouquet 21"	CCIEA Office Lecture Room	CCIEA Office Lecture Room
Fee	Fee About ¥2,500(no fee for the lesson, only for the textbook)		

II Other Japanese Classes that we sponsor:

Class	World Friends Sunday Japanese Club	Nihongo Otasuketai	Tsukishima Nihongo Club
Schedule	Every Sunday	Monday (3 times per month)	Every Tuesday
Time	10:00~11:30	19:00~20:30	10:00~12:00
Place	Nihonbashi Social Education Center	Nihonbashi Social Education Center	Tsukishima Social Education Center
Class	Partners of NIHONGO Communication	Ginza Japanese Language Class	NIKO NIKO NIHONGO
Schedule	Tuesday (3 times per month)	The 1st, 2nd & 3rd Wednesdays	Thursday (3 times per month)
Time	19:00~20:30	10:00~11:30	19:00~20:30
Place	Shintomi Community Hall	Tsukiji Social Education Center	Tsukuda Community Hall
Class	Nihongo Seikatsu		
Schedule	Every Saturday		
Time	14:00~15:45		
Place	Tsukiji Church Annex		
Fee	Fees differ depending on the class.		

(4) 日本語指導者養成講座

上記(3)の日本語教室で、区内在住・在勤の外国人に日本語を指導するボランティアを養成するため、協会独自の養成講座を開催します。

開催予定：令和2年6月～9月、全44時間

会場：協会講習室及び新富区民館

講師：明海大学外国語学部 准教授 西川 寛之

募集人員：25名程度

※感染症拡大防止のため、中止にしました。

(5) 日本語ステップアップ講座

日本語ボランティアを対象にステップアップ講座を開催し、指導者のレベルアップを図ります。

開催予定：年間7回(14時間)

※感染症拡大防止のため、4月から中止にしていますが、6～7月にはWeb会議システムを活用した特別講座(全3回)を実施します。

(6) ボランティア活動支援

協会登録ボランティアの活動を強化・支援するため、講

習会などを開催します。

また、中央区等から依頼があったとき、協会登録のボランティアを区の事業等に派遣します。

ボランティアの種類及び登録者数(令和2年3月末日現在)
登録者数：334名(実人員)

①通訳・翻訳ボランティア：82名

②イベントスタッフボランティア：174名

③日本語ボランティア：221名

④国際交流サロンボランティア：11名

⑤防災語学ボランティア：48名

※協会ボランティアの種類や登録要件等の一部を改正しました。(平成31年4月1日施行)

ボランティア講習会

開催予定：年間2回

(7) 姉妹都市親善写真展

中央区と姉妹都市であるオーストラリア・サザランド市との親善を深めるため、生活やまちの風景、行事等を紹介する写真を相互に交換し、親善写真展を開催します。

開催予定：令和3年2月

会場：3箇所で開催(区役所、日本橋区民センター、月島区民センター 各1階)

(8) 外国客船の歓迎式

東京港晴海埠頭に着岸する外国客船の入港時の歓迎行事に参加し、記念品を贈呈します。

主催：東京都港湾局、一般社団法人 東京都港湾振興協会

(9) 国際交流推進事業助成

協会の目的である国際交流の振興を図るため、区民が主体となって行う国際交流事業に対して後援するとともに、その事業の実施に要する経費の一部を助成します。

助成金額：当該事業の対象経費の1/2の範囲内(上限10万円)

令和2年度予算

<収入>

科目	予算額(円)	説明
事業収入	1,455,000	コンサート、古典芸能鑑賞会参加費等
区補助金	110,213,000	区からの補助金
寄付金	1,000	
雑入	1,000	預金利子
収入合計	111,670,000	

<支出>

科目	予算額(円)	説明
事業費	70,705,000	
文化振興費	64,719,000	文化振興事業に要する経費
国際交流振興費	5,986,000	国際交流振興事業に要する経費
管理費	40,465,000	
人件費	36,693,000	職員の給与に関する経費
管理運営費	3,772,000	理事会、事務費等
予備費	500,000	
支出合計	111,670,000	

株式会社江戸屋

江戸屋所蔵刷毛ブラシ展示館

300年以上続く
東京で最も歴史ある
刷毛・ブラシの専門店です。



はまだ かつし
濱田 捷利さん

●プロフィール

(株)江戸屋代表取締役
昭和18年生まれ。江戸屋の12代目として老舗の暖簾を守りつつ、毎年10月19・20日に行われるお祭り「寶田恵比寿神社べったらし」の保存会会長も務める。

●江戸屋所蔵刷毛ブラシ展示館

東京都中央区日本橋大伝馬町2-16
☎ 03-3664-5671
<http://www.nihonbashi-edoya.co.jp/>
月～金曜日(祝日・年末年始等を除く。)
9:00～17:00
東京メトロ日比谷線小伝馬町駅3番出口徒歩5分
JR新日本橋駅5番出口徒歩10分
●中央区まちかど展示館 ウェブサイト
<https://www.chuoku-machikadotenjikan.jp/>

8代將軍徳川吉宗の時代。1718年、享保3年に創業した、刷毛とブラシの専門店「江戸屋」は区内でも指折りの老舗です。国登録有形文化財に指定されている店舗は、今年6月に発行された郵便切手「江戸-東京シリーズ第1集」にも選ばれています。12代目の濱田 捷利さんにお話を伺いました。「江戸屋」という屋号は將軍家から与えられたとのこと。

はい。そのように伝わっています。創業当時から御用商人と一緒に江戸城に上がって、お抱え絵師たちに絵筆や刷毛を納めたり、大奥に化粧筆を納めたりしていたそうです。かつては「刷毛司・利兵衛(はけし・りへえ)」と呼ばれていたようですが、「江戸屋」という屋号をいただき、今に続いています。

長い歴史の中で、作る刷毛も変わってきたのでしょうか?

刷毛は道具です。時代や人々の暮らしの変化に合わせて、様々な用途の刷毛が作られてきました。江戸時代末期にはブラシの製造も始まり、珍しいものでは、7代目利兵衛がお台場の大砲の砲身を掃除するために作ったブラシなどもありました。明治時代になり、断髪令が出るとヘアブラシが、洋装が広まると服ブラシ、靴ブラシ、帽子ブラシなどが必要とされました。また、土地柄、築地も近く料理店も多かったので、料理刷毛やパン刷毛なども数多く手がけてきました。近年は工業用のオーダーメイドブラシが多いです。工場のラインで使われる強



郵便切手「江戸-東京シリーズ第1集」

靱な金属ブラシから、光学器械のための繊細なレンズブラシまで、多彩なブラシが日本のものづくりを支えていると思うと、誇らしいです。

「江戸刷毛」とは何ですか?

江戸時代中期から「江戸刷毛」という言葉が使われていたようです。現在では、ふすまや掛け軸などを作る際に使う「経師刷毛」をはじめ「染色刷毛」「人形刷毛」「うるし刷毛」「木版刷毛」「白粉刷毛」に、伝統的な技法で作る「塗装刷毛」を加えた7品目が「江戸刷毛」として、東京都知事指定伝統工芸品に指定されています。刷毛やブラシ作りは、種類によって細分化されていて、全国にそれぞれの職人さんがいます。江戸屋は職人さんたちをまとめる立場にあります。個性を見極めいいものを作ってもらふこと、そして、若い職人を育てることが大切です。そのためしっかりと対価を払ふことが欠かせません。ネットワークと信頼関係、職人さんたちの技が江戸屋の財産です。

ところで、個人で買える刷毛やブラシもありますか?

約3000種類ある商品のうち、化粧筆や歯ブラシ、はたき、たわしなどの日用品を店頭にご用意しています。外国人観光客の方も多く、うちの筆を買う目的で来日する画家の方もいるほどです。江戸刷毛などの展示もしていますので、ぜひ一度足を運んでみてください。

役員名簿(令和2年7月15日理事会 一部改選)

理事長	三田 芳裕	中央区観光協会副会長
副理事長	齊藤 進	中央区副区長
理事	遠藤 彬	東京商工会議所中央支部副会長
〃	柴川 賢	中央区商店街連合会会長
〃	森山 照明	中央区工業団体連合会会長
〃	山本 康一	東京日本橋ロータリークラブ元会長
〃	五味 達夫	東京銀座ライオンズクラブ元会長
〃	前田 勝正	京橋地域町会連合会会長
〃	岩田 博	日本橋地域町会連合会会長
〃	興石 智宏	月島地域町会連合会会長
〃	石本 正幸	中央区文化連盟連絡協議会会長
〃	木本 慎一	中央区体育協理事長
〃	坂間 政利	中央区PTA連合会会長
〃	廣田 文孝	東京青年会議所中央区委員会委員長
〃	遠藤 龍雄	中央区区民部長
〃	生島 憲	中央区教育委員会事務局次長
監事	神谷 聖子	中央区女性海外研修者の会元会長
〃	鈴木 浩	中央区会計管理者

表紙 日本銀行

設計者は建築学界の第一人者であった辰野金吾博士であり、本店旧館(本館)は昭和49年(1974)に国の重要文化財に指定された。日本橋の日本銀行、お札にはNIPPON GINKO、略称「日銀」は国の中央銀行である。古典様式の堅固な石積みレンガ造建築は、関東大震災にもビクともしなかった。静かな空気の2階の廊下には、当時の著名な洋画家の筆による歴代の日銀総裁の肖像画が飾られている。

小川 幸治

特集は、海外でもその価値が目されている漆をテーマに開催(令和元年9月)した「文化講座」の中で、漆精製販売業を営む会社の4代目代表取締役として様々な企業とのコラボレーションを通じて漆の可能性を広げ続けている佐藤 貴彦氏から「伝統素材「漆」を現代に活かす」と題して講演いただきましたところ大変好評でしたので、このたび講演に関連した内容で寄稿いただきました。「ひと 粋・活き」では、中央区が誇る文化資源を紹介する「中央区まちかど展示館」の一つであり、創業から300年以上続く、東京で最も歴史ある刷毛・ブラシの専門店である「江戸屋」の12代目店主の濱田 捷利氏にお話を伺いました。